

**令和 7 年度第 2 回堺市地域福祉計画推進懇話会（令和 7 年 8 月 8 日開催）  
における主な意見（抜粋）①**

**第 5 次堺市地域福祉計画・第 7 次堺市社会福祉協議会地域福祉総合推進計画「堺あったかぬ  
くもりプラン 5」骨子（案）について**

**▶堺市の地域福祉をとりまく状況について**

- ・災害対策基本法の改正により、災害対策の領域に福祉サービスという視点が入ったという変化を踏まえ、重点施策 5 の内容を検討してほしい。
- ・外部環境の変化（法改正等）だけでなく、内部環境（支援団体、市民団体、自治会等）の変化、特に「担い手の課題」について記載すべきではないか。
- ・データ、アンケートから読み取れる課題が具体的に記載されていない。堺市の地域福祉の到達点と課題を整理して提示することが望ましい。

**▶計画の推進方針と目標について**

- ・フォーマル、インフォーマルを問わず、様々な団体・機関や既存のネットワークを活かしながら、ミクロ・メゾ・マクロの視点から、地域福祉が充実するような取組を検討すべきである。
- ・堺市の地域福祉における課題や到達点だけでなく、強みも明示すべきである。
- ・市民・団体、企業・事業者・NPO などと連携するのであれば、各アクターの現在の役割と、連携によってどう改善されるかを明確に説明する必要がある。

**▶重点施策について**

- ・「誰一人取り残さない」ための取組は、ロジックモデルで段階的に示すことが望ましい。
- ・再犯防止には予防の視点を計画へ入れるべきではないか。
- ・一時的な課題への対応と、既存課題の長期化・重度化を防ぐ視点の両方を持つことで、地域福祉計画の構造をより整理・可視化できるのではないか。
- ・高齢者の居場所づくりは支える側の高齢化により維持が困難になってきている。次期計画の最終年度（令和 13 年）には、担い手の状況が大きく変化することを見据えた支援モデルの提示が必要ではないか。

**▶社協地域福祉総合推進計画について**

- ・社協計画のスローガンとして掲載されている「“支える福祉”から“ひらく福祉”へ”の“ひらく福祉”に関連して、様々なアイデンティティを持った方が夢を持てるというメッセージを出せたら良いと感じた。
- ・意思表示が困難な人も福祉制度の支援を受けられるようにするための議論が必要である。
- ・取り組む方向性 2 「つながりをつくる」という表現は抽象的ではないか。こども食堂が 100 以上設置されるなど、居場所づくりは進展しているが、地域福祉の充実につながっているかの検証が必要である。また、小地域福祉ネットワーク等、これまでの取組の蓄積と現状の課題を踏まえた計画づくりが重要である。
- ・社協が掲げる目標と、こども食堂の実績とのつながりが明確になることで、今後の推進に向けたロールモデルとなるのではないか。目標と成果の関係性を示すことで、地域福祉の具体的な展開が見えやすくなる。